

KIPPオンライン講座
対人関係と組織の心理学 第11講義

組織の病理

パート1 組織における問題行動

講師 川畑直人

(教育学博士・臨床心理士・公認心理師・WAWI精神分析家)

パート1 組織における問題行動

組織の状態がうまくいっていないと、メンバーにさまざまな問題行動が表れます。逆に言うと、そうした問題行動は、組織の状態をチェックする重要な指標となります。

第10講義 内容

- ・パート1 組織に発生する問題行動
- ・パート2 神経症的な組織
- ・パート3 問題のあるリーダー
- ・パート4 「自由からの逃走」そして権威主義的性格

メンバーの示す異常行動パターン

- ・組織のメンバーは、上司、同僚、部下、顧客から、さまざまなプレッシャーを受ける。
- ・それに、耐えられない場合、メンバーが示す3つの可能性。
 - 1) 出る(exit)
 - 2) 不満を言う(voice)
 - 3) 心理的障害(neglect)…感染性がある。

・参考文献 Samuel, Y. (2010) *Organizational Pathology*. NJ: Transaction Publishers.

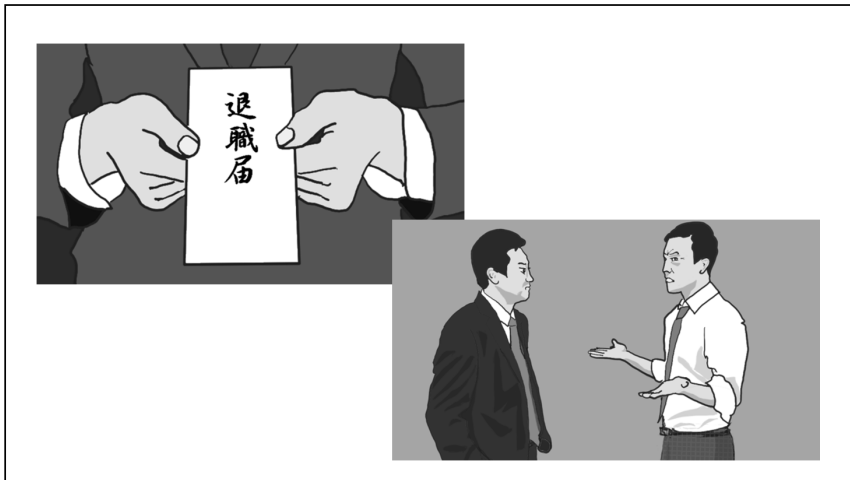


心理的障害1

仕事中毒 Workaholism

- 仕事の中にのめり込み、離れられなくなる。
- ワークライフバランスを崩し、人間が一面的になる。
- 疲弊が起こりやすく、最終的に仕事は雑になる。

- ハイテク企業、研究者など、高学歴の人に多い。
- 肯定的な意味のワーク・エンゲージメントと区別される。



心理的障害2

自己疎遠化 Alienation

- 仕事、組織、同僚からの自己切り離し。
- 具体的には、欠勤、早退、傷病過多など。
- 同様に、攻撃的行動、社会的行事への不参加、心ここにあらず、などが増える。

- 業務や組織の複雑化、巨大化、そしてITの普及により、仕事にやりがいを見いだせないケースが増えている。

心理的障害3

不平等感 Inequity

- 雇用、収入、昇進などが不平等で、剥奪されていると知覚している状態。
- 人種、性別、民族などの違いによる差別がある場合がある。
- 社会的に公表されると、評判を落とす。
- 退職者、退会者が続出すると、組織は衰退する。

参考文献

- 1) 加藤正明他編 2001 精神医学事典 弘文堂
- 2) Samuel, Y. (2010) Organizational Pathology. NJ: Transaction Publishers.
- 3) Kets de Vries, M. F. R. & Miller, D. (1984) Neurotic Organizations. Jossey-Bass.
- 4) Kernberg, O. F. (1994) Leadership Style and Organizational Pranoigenesis. In Oldham & Bone ed. Paranoia; New Psychoanalytic Perspective. International University Press. Pp.61-79
- 5) フロム, E. 1941 日高六郎訳 1951 自由からの逃走 東京創元社

心理的障害4

過剰同調 Over-conformity

- 目標よりも手段を強調する。目的と手段の転倒。
- 規則、規制、手続きへの固執。
- 決まり文句:「申し訳ありません。規則になっておりまして。上の者が決めていますので。」
- ナチのユダヤ人大量虐殺も、このような過剰同調の下で行われたという。